# 第３章　風景区域毎の色彩指針

## １．色彩指針の構成

ここでは第２章で示した色彩計画の方針と指針の詳細について４つの風景区域毎にさらに詳しく示します。それぞれの風景区域の色彩指針は以下のような内容で構成されています。

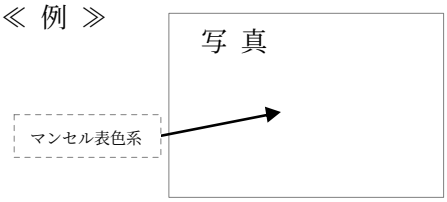
### ■ 区域の特徴

- 地域に見合った色彩景観を保全し、創造していくため、それぞれの風景区域の特徴と前述した色彩計画の方針を具体化するために配慮すべき事項などを記しています。

### ■ 特徴的な写真

- それぞれの風景区域の特徴的な写真です。特徴ある風景を守り、育てていくために、共通ルールとして風景区域毎の色彩指針を定めますので活用してください。おすすめできない事例も加えています。
- 参考としてマンセル表色系を記します。特徴ある色彩をマンセル表色系で表すと、どの様な表記になるのかを確認してください。

≪ 例 ≫




### ■ 避けた方がよい色

- それぞれの風景区域で周辺の景観と不調和を起こしやすいと思われる色の範囲（色相・明度・彩度）について記しています。

### ■ おすすめの色

- それぞれの風景区域で周辺の景観と調和し、また地域の特徴を引き立てると思われる色の範囲（色相・明度・彩度）について記しています。

次項へ続く・・・

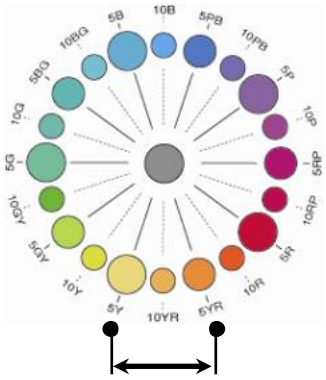
## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

- 建築物の外壁についておすすめの色の範囲をイメージ図で示しています。
- 色相、明度、彩度の変化に伴う色あいの違いを確認できます。

- 代表的な色彩の具体例の表示には、下記のようなイメージ図を適宜示していますので、色彩の範囲を視覚的に捉えるときの参考にしてください。

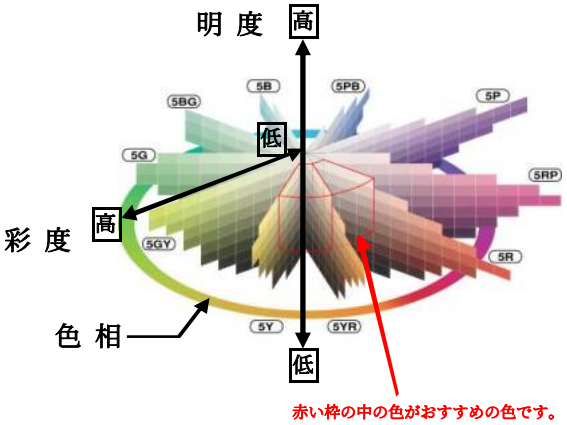
≪ 例：イメージ１ ≫

おすすめ色の色相の範囲を示しています。



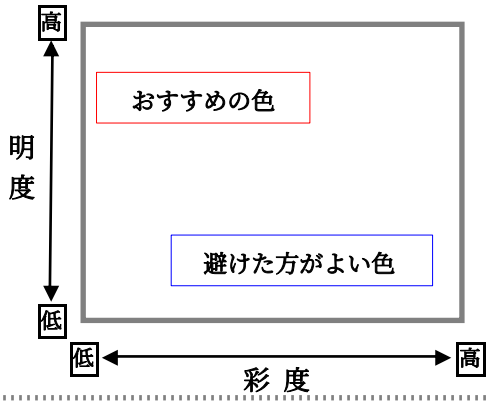

≪ 例：イメージ２ ≫

おすすめの色の色相、明度、彩度の範囲を立体的なイメージ図で示しています。



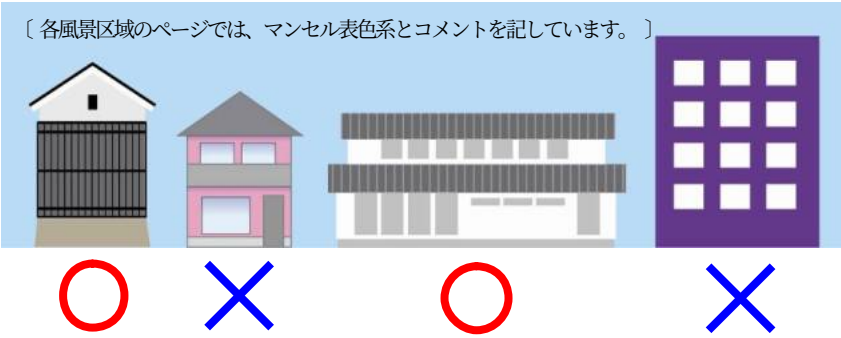

≪ 例：イメージ３ ≫

代表的な色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示しています。




## ■ 事例

※　地域の特徴となる風景が周囲に存在している場合や、歴史的な建築物等との色彩を比較し、おすすめの色と避けた方がよい色を用いた場合の事例を紹介しています。併せてそれらのマンセル表色系を記しています。



## ２．森の風景区域

### ■ 区域の特徴

森の風景区域に立地する建築物等は、本市の特徴的な自然地形を活かした広がりのある眺望景観や眺望点から見える遠望景観を損なわぬよう、色彩にも十分な配慮が必要です。

周囲の自然の色を活かすため、鮮やかさや明るさを抑えた色使いが基本です。さらに屋根と外壁の色彩をそれぞれ別々に考えるのではなく、建築物全体で統一感のある雰囲気をつくり出すと、より自然な外観にすることができます。

また、勾配屋根などを効果的に用いることで、より美しい外観を創出できます。

### ■ 特徴的な写真

Ｎ７〔無彩色〕

○〔工業団地〕
- 緑に包まれたテクノプラザにあるおすすめの色の建物です。
- 色彩基準を定めて良好な環境を保っています。

5Ｙ9/0.5〔薄いクリーム色〕

○〔工業団地〕
- 市北部の山裾にある各務東町工業団地の様子です。
- 低彩度の穏やかな色彩が使われているおすすめの色の建物です。

7.5YR5/3〔濃い茶色〕

Ｎ９〔無彩色〕

○〔医療機関〕
- 自然の緑と調和する色の建物です。
- 無彩色と暖色系の色で構成され、落ち着きが感じられます。色相、明度、彩度ともにおすすめです。

10Ｙ8.5/8〔高彩度の黄色〕

×〔集合住宅 ～ 他都市事例 ～〕
- 自然の緑と違和感の強い色のマンションです。
- 避けた方がよい彩度の色で、周囲のまち並みから突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けた方がよい色

森の風景区域の風景の基盤となっている自然の色彩を活かすため、建築物や工作物等に特に色合いの強い原色系の色彩を基調色として使用することを避けてください。以下に示す高彩度の色彩は、特に季節の移り変わりを伝える自然の色彩よりも目立ち、その美しさを妨げる要因になります。

≪ 色彩指針 森の風景区域 避けた方がよい色 ≫

〔 高彩度の色があてはまります 〕

etc

外壁 と 屋根

| | | |
|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>彩度　5 以上 | 色相　5R～5Y<br>彩度　7 以上 | 色相　左記以外<br>彩度　2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

森の風景区域では周囲の山々が持つ自然の緑や畑作地帯に広がる土の色彩等を活かせるような色を用いると良いでしょう。

一般的な植物の緑の色彩は、おおよそ明度 3～7 程度で、彩度は 6 前後です。これらの色彩を活かすためには外壁の基調色の彩度を 6 以下に抑えることが必要になります。

一方、土の色はおおよそ明度 3～7 程度で、彩度は 3 程度であり、これら土の色彩の色相は、ほとんどが暖色系である YR（黄赤）系や Y（黄）系などに属しており、これらの色相に配慮した色使いが望まれます。また、工場などでよく使われる無彩色についても建築物の規模や周辺の景観に配慮することを前提として推奨します。

以上のことから、森の風景区域の建築物の外壁の色彩は 5YR から 5Y の穏やかで落ち着きのある暖色系の色相で、明度が 5 以上 10 未満、彩度が 4 未満の色彩と無彩色を推奨します。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

≪ 色彩指針 森の風景区域 おすすめの色 ≫

〔 例えばこんな色があります 〕

・生成り色
・砂色
・朽葉色

etc

外壁

| | |
|---|---|
| 色相　5YR～5Y<br>明度　5 以上 10 未満<br>彩度　4 未満 | 無彩色 |

屋根

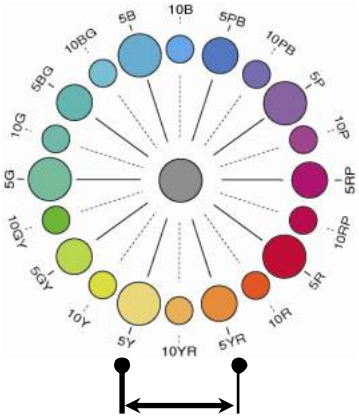
| | | | |
|---|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>明度　5 未満<br>彩度　2.5 未満 | 色相　5R～5Y<br>明度　5 未満<br>彩度　4 未満 | 色相　左記以外<br>明度　5 未満<br>彩度　1.5 未満 | 無彩色 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

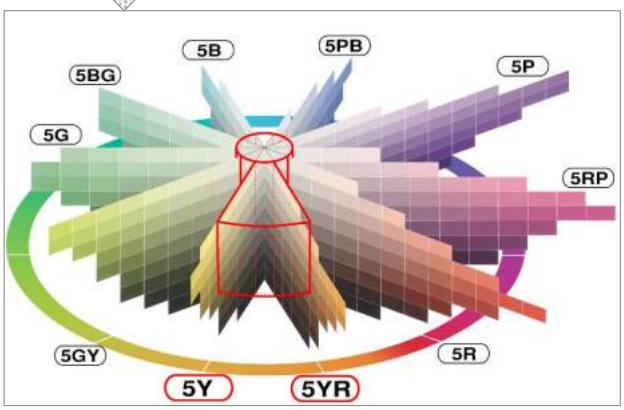
森の風景区域のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
５ＹＲ（黄赤）～ ５Ｙ（黄）　　無彩色




おすすめの色相

■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

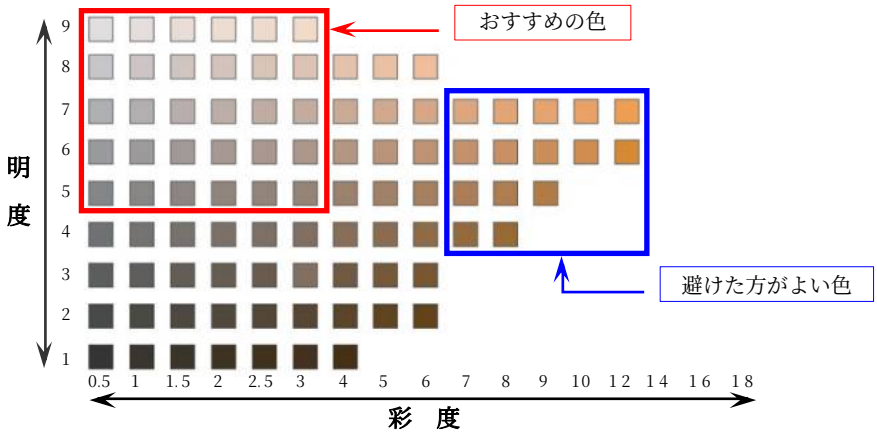



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

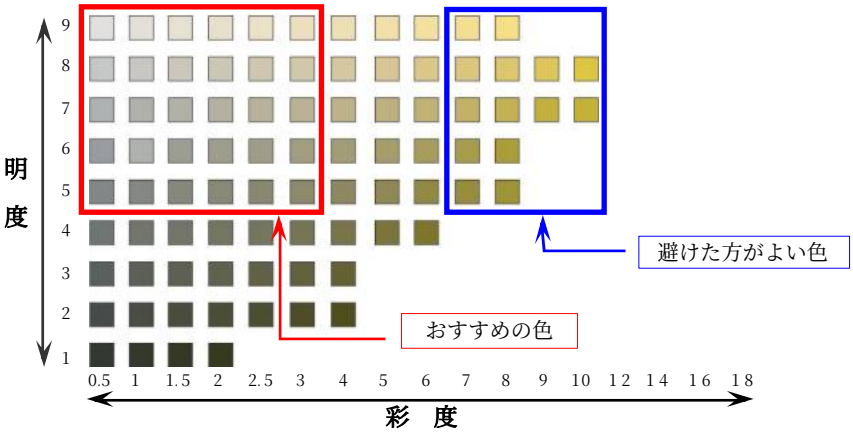
■ 無彩色

次に森の風景区域のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示します。ここでは、おすすめの色の色相の両端である５ＹＲと 5Y について図示します。

**ＹＲ（黄赤）系の色相　【 ５ＹＲの場合は・・・ 】**

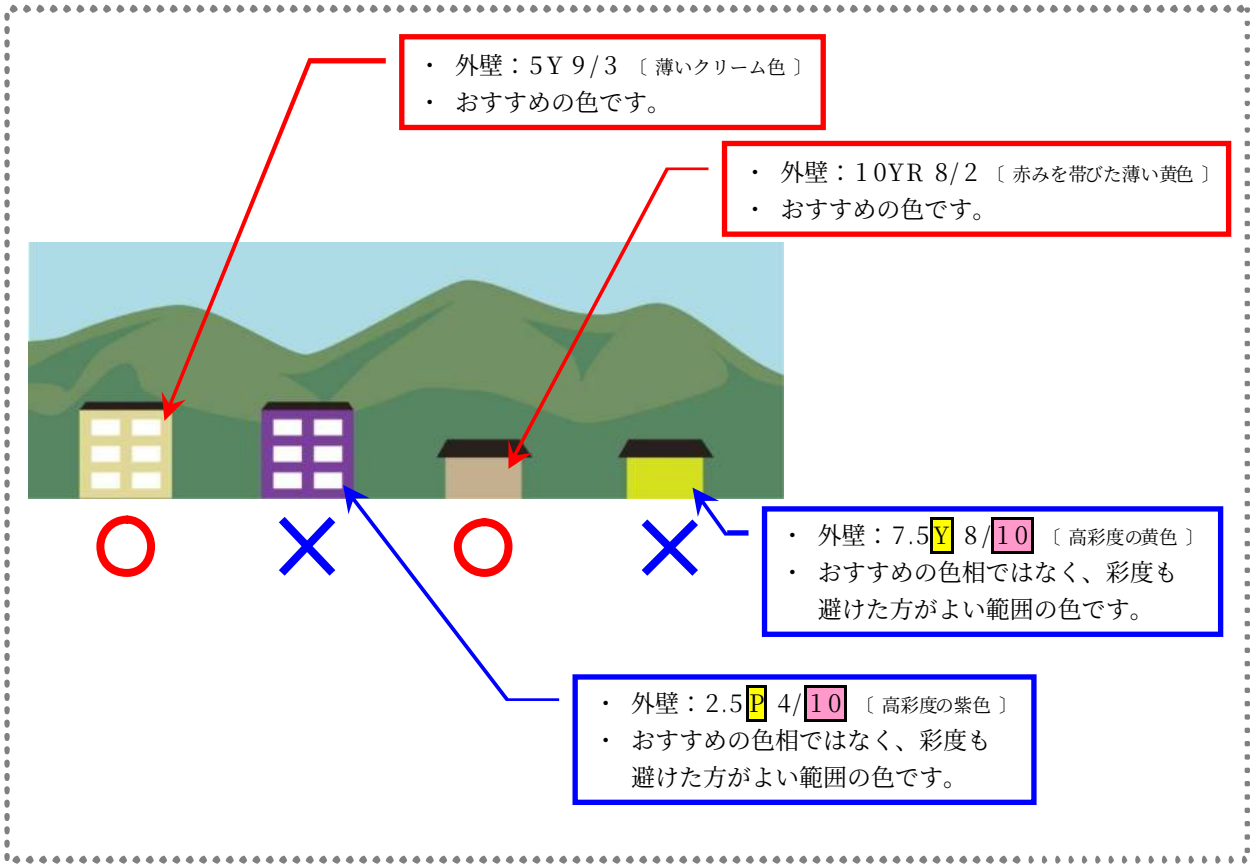



**Ｙ（黄）系の色相　【 ５Ｙの場合は・・・ 】**



## ■ 事例

森の風景区域では自然の緑や土の色を活かすような色彩を推奨しています。
寒色系の色相や彩度が高いような色は豊かな自然景観を阻害してしまいます。



## ３．川の風景区域

### ■ 区域の特徴

木曽川沿いや川島地区などが含まれる川の風景区域は、川沿いの景観だけを考えるのではなく、例えば愛知県側から眺めると木曽川越しに本市北部の山並みが眺められるなど、川のみでなく周囲の自然との関係を考慮して色彩を考えることも、この区域の良好な景観の形成のために重要なことです。そのため、この区域の建築物等にはアースカラー（大地をイメージしたような色）と呼ばれるような色相の中彩度から低彩度の色を用い、川と周囲の山々とを一体的に捉え、自然の色彩に配慮した色使いにしてください。

川の水は見る時の状況（季節、時間、太陽の日のあたり方等）により変化しますが、川の石や砂などの自然素材の色はあまり変わりません。これら周辺の自然の色を参考にしたり、配慮して基調色を検討する必要があります。

### ■ 特徴的な写真

○〔戸建て住宅〕
- 白い漆喰壁と木材の明暗がはっきりとした色彩。
- 無彩色と木材の自然素材（低彩度色）で構成され落ち着きがあります。

○〔観光施設〕
- 素材色を活用した建物（岐阜県世界淡水魚園水族館）。
- 周囲の緑よりも鮮やかさが抑えられ、おすすめの色の建物です。

○〔工作物〕
- 無彩色を採用し落ち着いた色彩の橋桁（犬山橋）。
- 背景となる山の緑を阻害しない、おすすめの色です。

×〔商業施設 ～ 他都市事例 ～〕
- 周囲の建物と違和感のある色の建物です。
- 避けた方がよい彩度の色で、周囲の建物から突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けたほうがよい色

川の風景区域の開放的な風景を阻害しないよう、特に色合いの強い原色系の色彩を建築物や工作物等の基調色として使用することを避けてください。以下に示す高彩度の色は、川沿いに相応しい開放感や川の青さなど、自然の色彩の美しさを妨げる要因になります。

**≪ 色彩指針** 川の風景区域 避けた方がよい色 **≫**

〔 **高彩度の色があてはまります** 〕

etc

**外壁** と **屋根**

| | | |
|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>彩度　5 以上 | 色相　5R～5Y<br>彩度　7 以上 | 色相　左記以外<br>彩度　2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

川の風景区域では自然と密接な関係をつくりあげるという観点から、自然を想起させるような暖色系の色を活用してください。また、開放感が感じられるように、外壁の色彩の色調（トーン）を少し明るくすることで圧迫感をなくす効果が得られ、広がりのある景観になります。

これらにより R（赤）系から Y（黄）系までの暖色系の色相の中明度の色が適しています。また、工場などでよく使われる無彩色についても建築物の規模や周辺の景観に配慮することを前提として推奨します。

以上のことから、川の風景区域の建築物の外壁の色彩は 5R から 5Y の穏やかで落ち着きのある暖色系の色相で、明度が 5 以上 8 未満、彩度が 7 未満の色彩と無彩色を推奨します。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

**≪ 色彩指針** 川の風景区域 おすすめの色 **≫**

〔 **例えばこんな色があります** 〕

- 茶鼠（ちゃねずみ）
- 駱駝（らくだ）色
- 芥子（からし）色

etc

**外壁**

| | |
|---|---|
| 色相　5R～5Y<br>明度　5 以上 8 未満<br>彩度　7 未満 | 無彩色 |

**屋根**

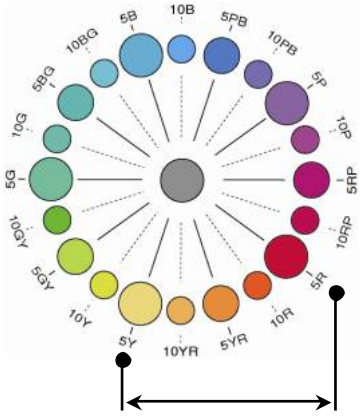
| | | | |
|---|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>明度　5 未満<br>彩度　2.5 未満 | 色相　5R～5Y<br>明度　5 未満<br>彩度　4 未満 | 色相　左記以外<br>明度　5 未満<br>彩度　1.5 未満 | 無彩色 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

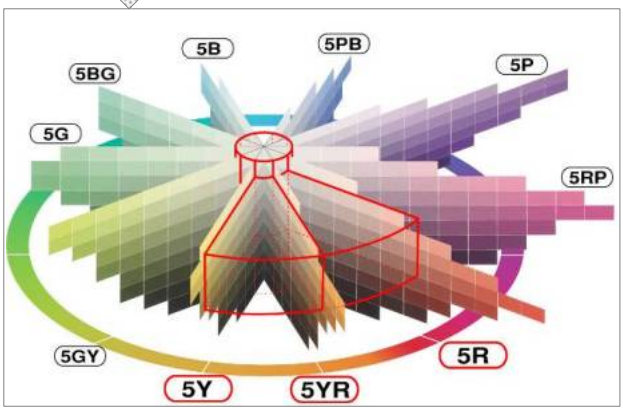
川の風景区域のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
５Ｒ（赤）～ ５Ｙ（黄）　　無彩色




おすすめの色相

■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

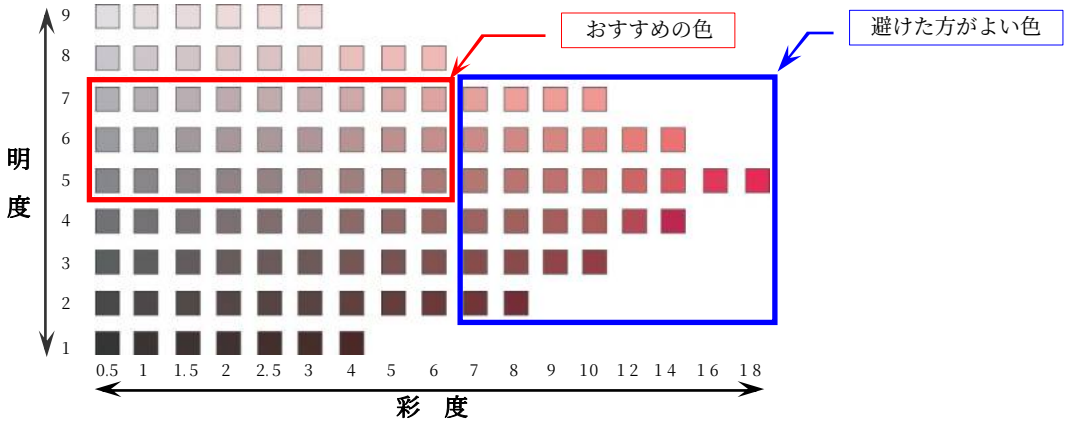



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

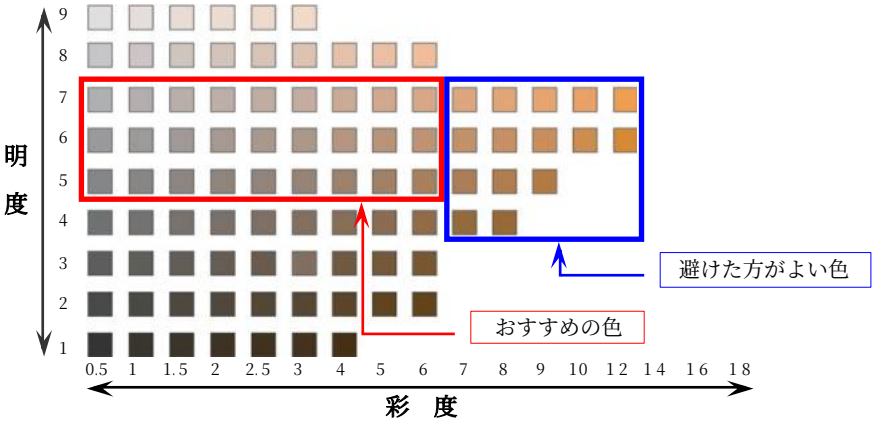
■ 無彩色

次に川の風景区域のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示します。ここでは、おすすめの色の色相の両端である５Ｒ、5Y とその中間の５ＹＲについて図示します。

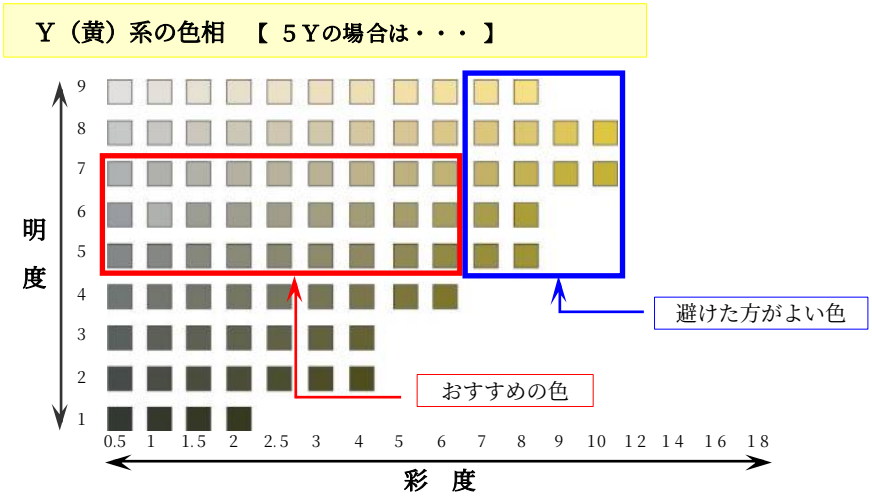
**Ｒ（赤）系の色相　【 ５Ｒの場合は・・・ 】**




**ＹＲ（黄赤）系の色相　【 ５ＹＲの場合は・・・ 】**

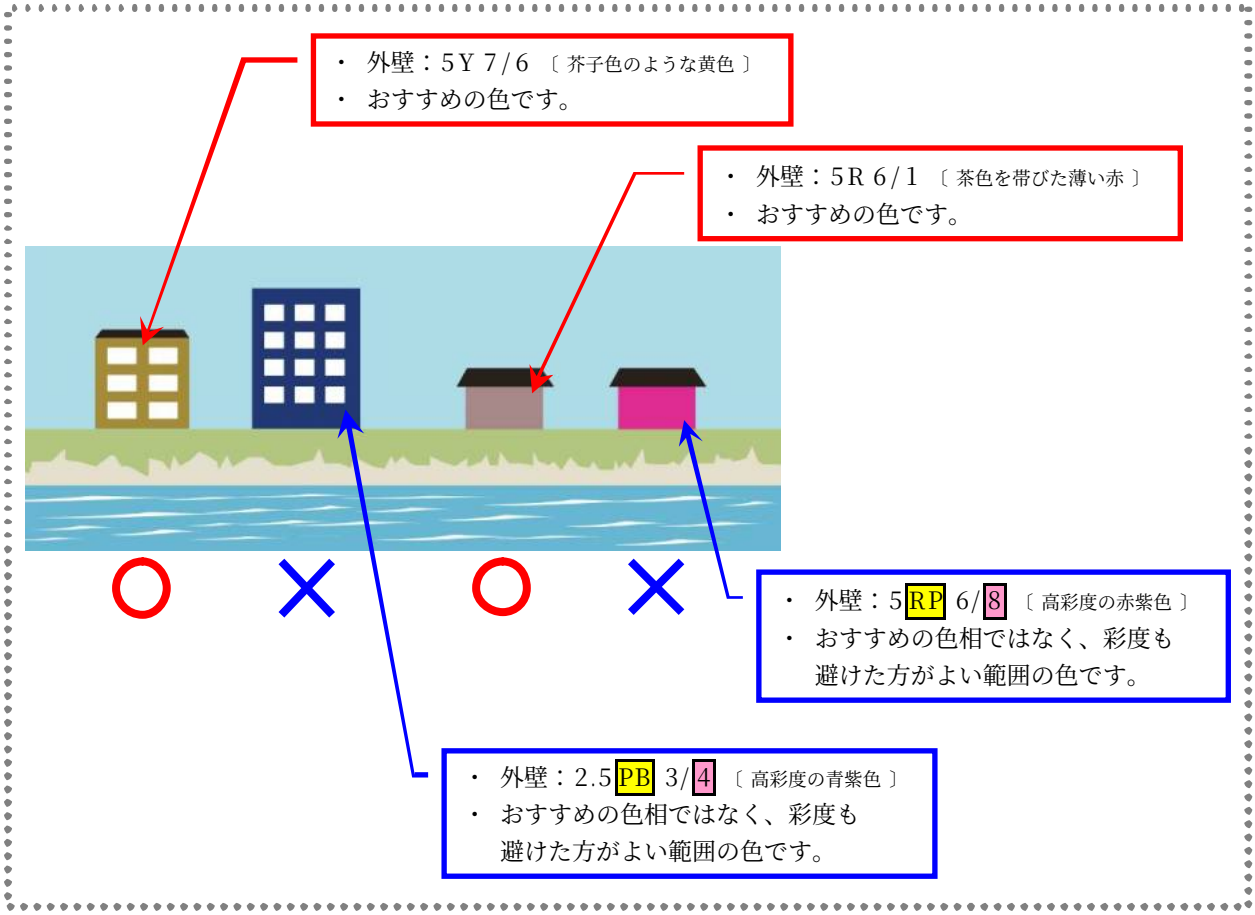


## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ




## ■ 事例

川の風景区域では開放感があり自然の色を活かすような色彩を推奨しています。
寒色系の色相や彩度が高いような色は豊かな自然景観を阻害してしまいます。



## ４．田園と歴史の風景区域

### ■ 区域の特徴

広がりある田園地域では建築物等の色が派手だと遠くからも目につきやすいため、特に高層の建築物、大規模な工場や店舗等は周囲の景観と違和感なく調和するよう、自然に近い穏やかな色彩を用いるなど、十分な配慮が大切になってきます。田園の緑によく映え、汚れも目立ちにくい中～高明度の低彩度色がよいでしょう。

また歴史的な景観が残る地域では、古くからの家屋や蔵が今でも大切に継承されています。このような区域の景観づくりは、風格漂う歴史的建築物を維持し続けることも重要です。

しかし、新しい建築物等は昔ながらの素材で風格のある建築物等を建てることは困難な場合もあります。そういった場合でも、自然資材により近い色彩を選択することで地域として景観的にまとまりを持たせることも可能です。

### ■ 特徴的な写真

N ２〔無彩色〕

○〔歴史的集落〕
- 黒い板塀が連続する加佐美神社周辺の建物。
- 古くからの伝統を継承した特徴ある色使いがされており、おすすめの色です。

N ９〔無彩色〕　2.5G6/10〔田園の緑〕

○〔田園地帯〕
- 初夏の田園地帯（蘇原地区）。
- 豊かな自然の色彩が基調となっている地区で、無彩色を使ったおすすめの色の建物です。

N ９〔無彩色〕

○〔歴史的建造物〕
- 白い漆喰壁と瓦の和風建築物（村国座 各務の舞台）。
- 建物は歴史的な地区にふさわしい色使いがなされ、鮮やかな欄干が特徴になり、おすすめの例です。

5R4/14〔高彩度の赤色〕

×〔工業施設 ～ 他都市事例 ～〕
- 周囲の自然の色を阻害する色の建物です。
- 避けた方がよい彩度の色で、周囲の自然から突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けた方がよい色

田園と歴史の風景区域で古くから継承されてきた田園やにんじん畑などの自然景観を活かすことや、風格あるまち並みを継承していくため、特に色合いの強い原色系の色彩を建築物や工作物等の基調色として使用することを避けてください。以下に示す高彩度の色彩は、特に周囲が開けた田園景観の中に立地する場合は自然に囲まれた景色の中でひと際目立つ存在となり、広がりある広大な田園景観を妨げる要因になります。

**≪ 色彩指針** 田園と歴史の風景区域 避けた方がよい色 **≫**

〔 **高彩度の色があてはまります** 〕

etc

**外壁** と **屋根**

| 色相 | 彩度 |
|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 以上 |
| 5R～5Y | 7 以上 |
| 左記以外 | 2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

田園と歴史の風景区域では田園の緑よりも彩度が低く、特に土色に近い暖色系の色相を用いるとよいでしょう。暖色系の低、中彩度色の色彩を外壁などの基調色に使うことで周囲の自然に馴染む外観になります。

歴史的まち並みが残る地域では、現在用いられている漆喰や木材、和瓦などの自然素材等を活かした色彩を尊重することも大切です。暖色系の落ち着いた色彩の他に明暗の対比がついたモノトーン（白、黒、グレーの無彩色だけで構成されること。）の配色が特徴となっている色使いも見られます。よって無彩色を用いることもよいでしょう。

以上のことから、田園と歴史の風景区域の建築物の外壁の色彩は、5R から 5Y の穏やかで落ち着きのある暖色系の色相で明度が 5 以上 10 未満、彩度が 7 未満の色彩と無彩色を推奨します。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

**≪ 色彩指針** 田園と歴史の風景区域 おすすめの色 **≫**

〔 **例えばこんな色があります** 〕

- 胡粉（ごふん）色
- 肉桂（にっけい）色
- 肌色

etc

**外壁**

| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 5R～5Y | 5 以上 10 未満 | 7 未満 |
| 無彩色 | | |

**屋根**

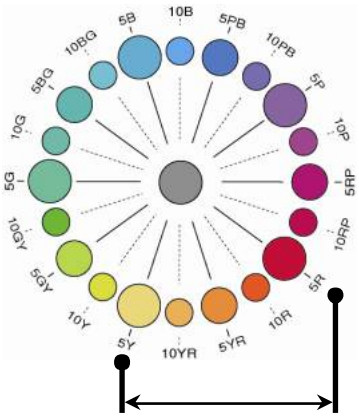
| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 未満 | 2.5 未満 |
| 5R～5Y | 5 未満 | 4 未満 |
| 左記以外 | 5 未満 | 1.5 未満 |
| 無彩色 | | |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

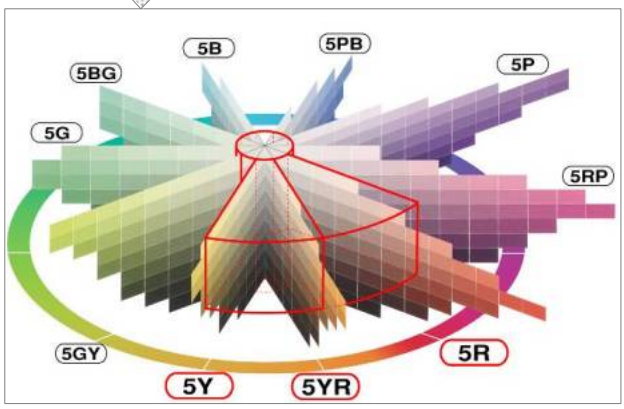
田園と歴史の風景区域のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
５Ｒ（赤）～ ５Ｙ（黄）　　無彩色




おすすめの色相

■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

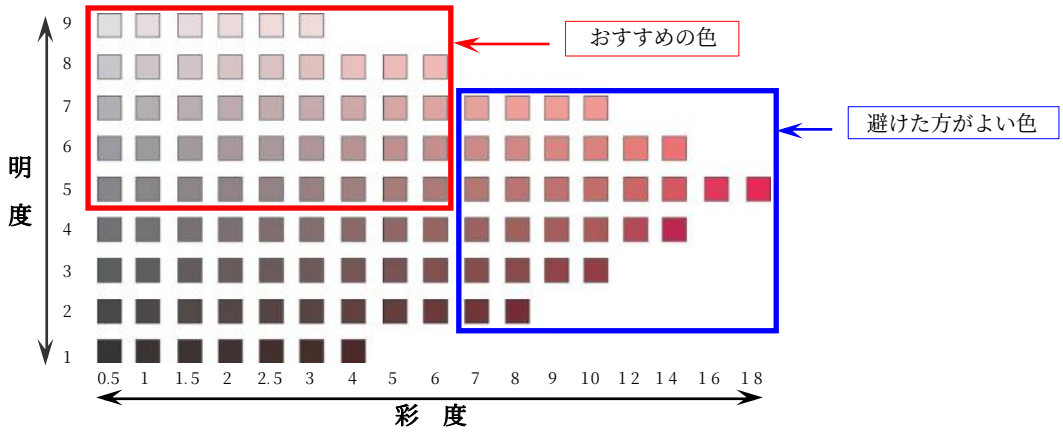



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

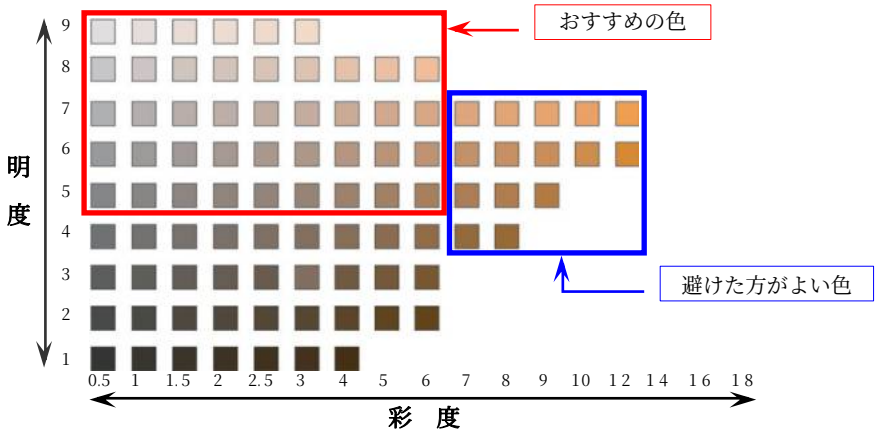
■ 無彩色

次に田園と歴史の風景区域のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示します。ここでは、おすすめの色の色相の両端である５Ｒ、5Y とその中間の５ＹＲについて図示します。

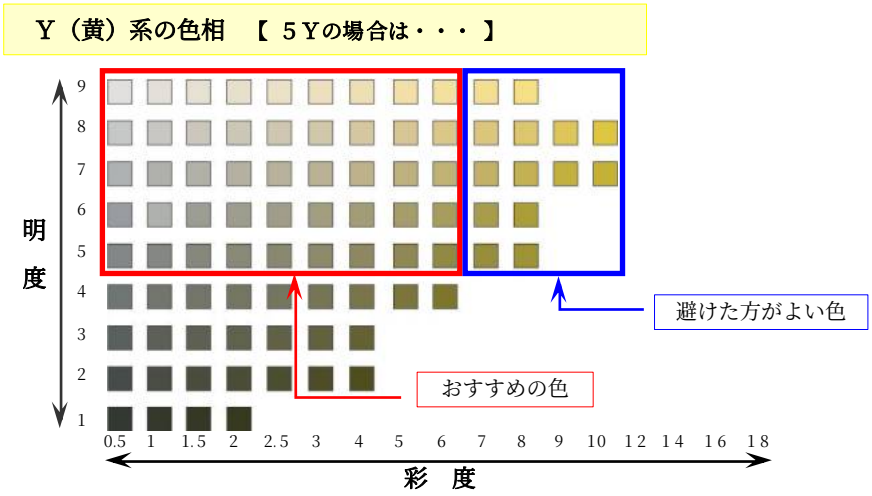
**Ｒ（赤）系の色相　【 ５Ｒの場合は・・・ 】**




**ＹＲ（黄赤）系の色相　【 ５ＹＲの場合は・・・ 】**



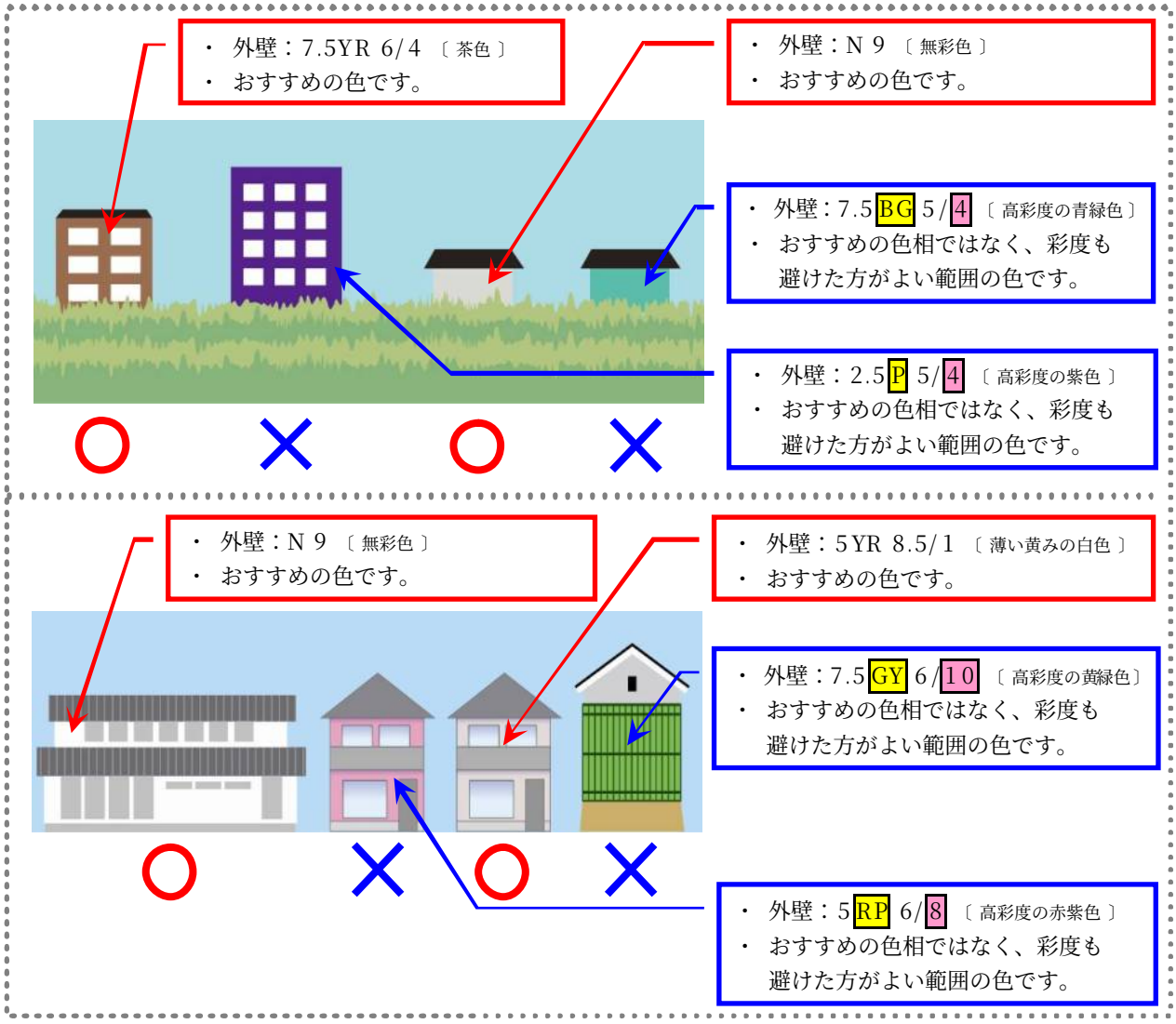
## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ




## ■ 事例

田園と歴史の風景区域では田園などの自然の色を活かし、歴史的な趣きのある既存の建物の色と調和するような色彩を推奨しています。

寒色系の色相や彩度が高いような色は地域の特徴ある景観を阻害してしまいます。



# ５．まちの風景区域

## ■ 区域の区分

まちの風景区域は都市計画の用途地域の指定状況を考慮すると、住宅地、商業地、工業地の土地利用区分に分類（図１４：用途指定状況）することができます。

まちの風景区域では都市計画の用途地域の指定エリアを基準として色彩指針を住宅地、商業地、工業地の３つのエリアに分類（図１５：ガイドラインにおける区分）して示します。

図１４：用途指定状況

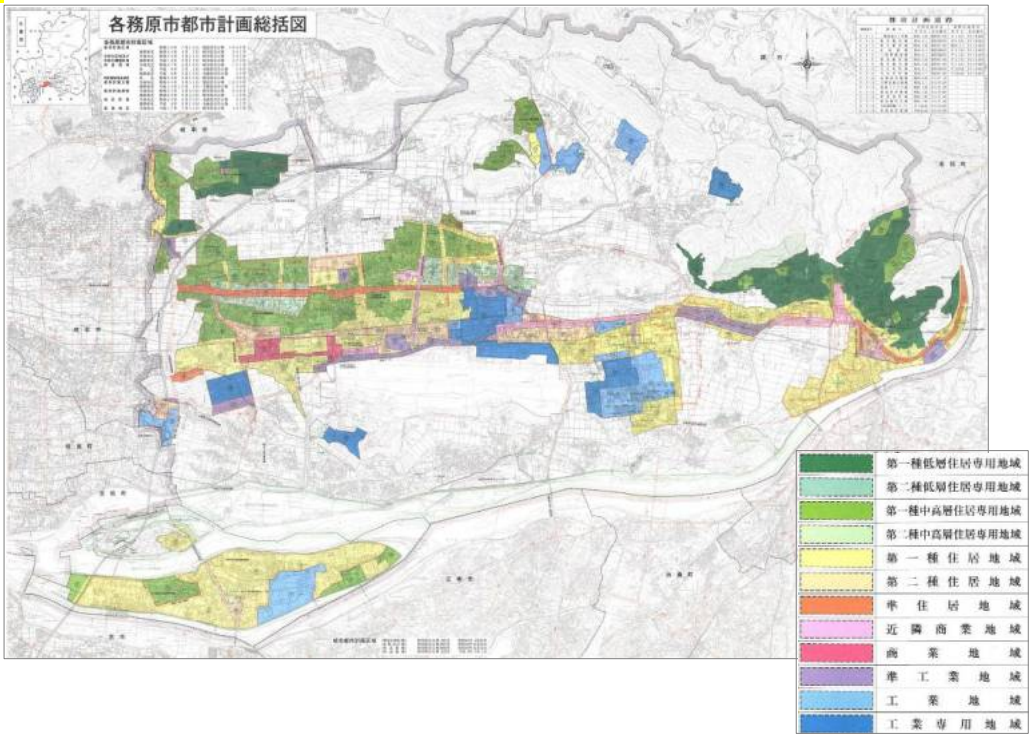
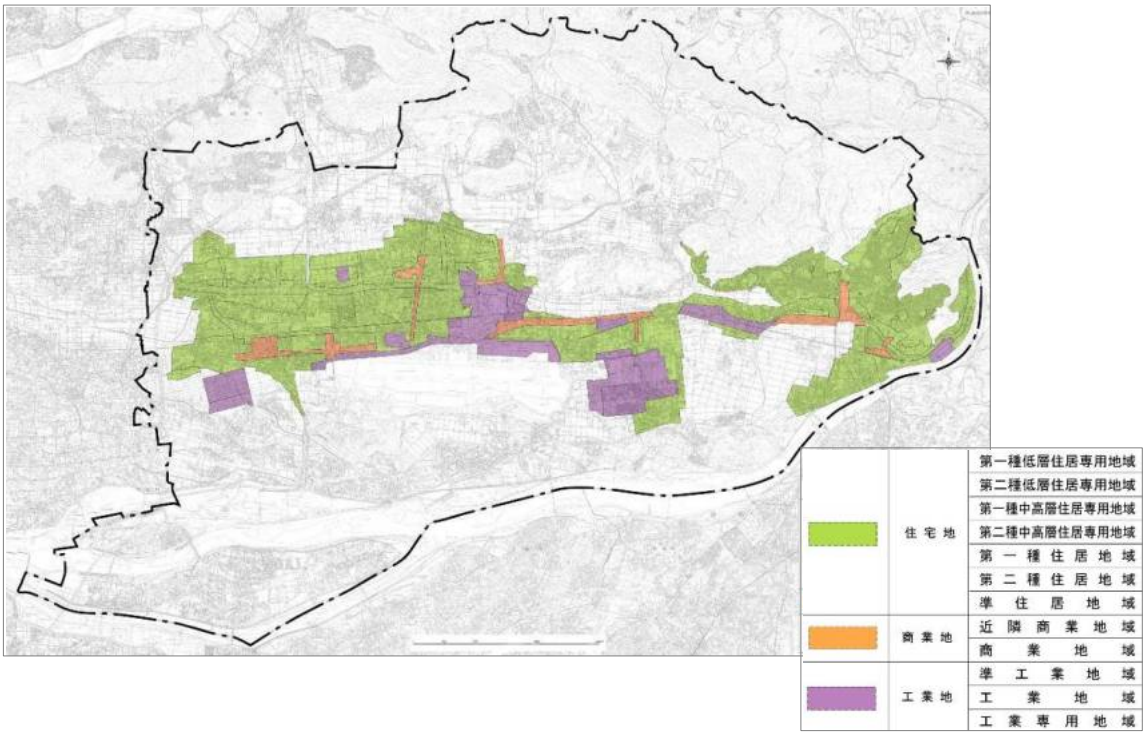



図１５：ガイドラインにおける区分



## （1）住 宅 地

### ■ 区域の特徴

住宅は個人の資産であるため、その配色も個人の自由だと考えられがちですが、地域の景観を育てていくためには、個人が所有する住宅であっても、その外観は地域の景観を構成する要素であることを認識して、周辺との関係に配慮すべきです。色彩は周辺と調和がされた時に美しく見えます。個人の趣味で勝手な色使いをしていたのでは、まち並み景観が地域の資産になることはありません。

ある程度のまとまりの中で、例えば玄関まわり等にそれぞれ個性的な色使いがなされていると、それらを見て歩くことも楽しく感じられます。

住宅地として望まれる景観は、落ち着きと安らぎのある景観です。全国的に多くの住宅に採用されている慣用色でいうと、暖色系の低彩度色が多く、目新しさはないものの、住宅にふさわしい飽きのこない色彩といえます。また、これらの色彩は、暮らしの中に季節感をもたらしてくれる庭木の緑や花を引立ててもくれます。住宅地では、落ち着きと安らぎのある景観とするために、暖色系の低彩度色を基本に考え、周囲の住宅と色相や色調（トーン）を揃えるなど、周辺の色彩に配慮してまち並みとしてのまとまりを創出していくことが大切です。

一方、共同住宅は規模が大きく、特に周囲の景観に与える影響が大きいものです。戸建て住宅と同じような穏やかな暖色系の低彩度色を基本とする心配りや色使いの工夫が求められます。

### ■ 特徴的な写真

○〔公園〕
- 緑豊かな公園内（まなびの森）に建つ建物。
- 無彩色を採用し、目立ちすぎないよう配慮しているおすすめの色の建物です。

○〔新しい住宅街〕
- 近年、造成された新しい住宅街（蘇原地区）。
- 全体的に低彩度色で構成され、植木の緑も映える住宅街に相応しい、おすすめの色使いの例です。

○〔集合住宅〕
- 明るい外観の集合住宅。
- 暖色系の色相で彩度も低く抑えられ、威圧感が少なく、おすすめの色の建物です。

×〔戸建て住宅 ～ 他都市事例 ～〕
- 周囲の建物と違和感のある色の建物です。
- 避けた方がよい彩度の色で、周囲の建物から突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けた方がよい色

まちの風景区域の住宅地としての環境にふさわしい、落ち着きと安らぎのあるまち並みを分断する要素とならないよう、特に色合いの強い原色系の色彩を建築物や工作物等の基調色として使用することを避けてください。共同住宅を含め、ほとんどの住宅の基調色は低彩度色の落ち着いた配色を基本としています。このような色彩環境の中に以下に示す高彩度の色を基調としたものが現れると、一層目立つ存在となり、穏やかな色彩の連続性を遮断してしまい、また落ち着きのあるまち並み景観を混乱させ、阻害する要因になります。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（住宅地）避けた方がよい色 ≫

〔 高彩度の色があてはまります 〕

etc

外壁 と 屋根

| | | |
|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>彩度　5 以上 | 色相　5R～5Y<br>彩度　7 以上 | 色相　左記以外<br>彩度　2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

まちの風景区域の中の住宅地は生活の場であることから、そこに住む人や帰ってくる人がくつろぎを感じられ、優しく迎えられるような配慮が必要です。穏やかで落ち着きのある暖色系の色彩を推奨します。また、集合住宅はその規模や高さなどによっては周辺の景観に対して威圧感や圧迫感を与えやすいものです。従属色（アソートカラー：基調色（ベースカラー）を安定させる色。アソートカラーの使用例として、高層の建築物の低層部分に用いたりします。）を効果的に用いた色彩計画で、これらを和らげる配慮も必要です。また、無彩色など素材の色の特徴を活かした建築物なども規模や周辺の景観に配慮することを前提として推奨します。

以上のことから、まちの風景区域（住宅地）の建築物の外壁の色彩は、5R から 5Y の穏やかで落ち着きのある暖色系の色相で明度が 5 以上 10 未満、彩度が 4 未満の色彩と無彩色を推奨します。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（住宅地）おすすめの色 ≫

〔 例えばこんな色があります 〕

・象牙色
・砂色
・朽葉（くちば）色

etc

外壁

| | |
|---|---|
| 色相　5R～5Y<br>明度　5 以上 10 未満<br>彩度　4 未満 | 無彩色 |

屋根

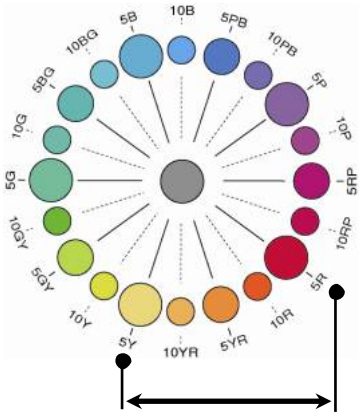
| | | | |
|---|---|---|---|
| 色相　0R～4.9R<br>5.1Y～10Y<br>明度　5 未満<br>彩度　2.5 未満 | 色相　5R～5Y<br>明度　5 未満<br>彩度　4 未満 | 色相　左記以外<br>明度　5 未満<br>彩度　1.5 未満 | 無彩色 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

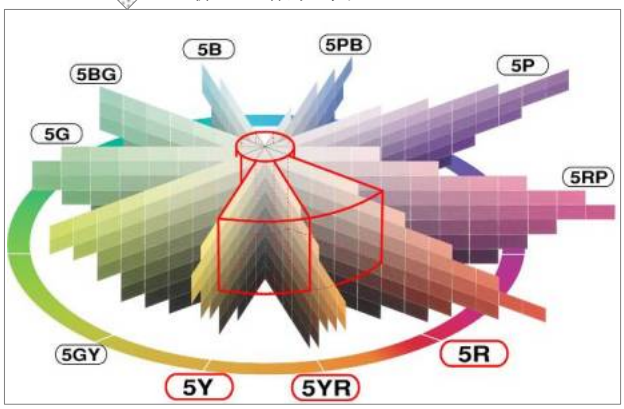
## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

まちの風景区域（住宅地）のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
５Ｒ（赤）～ ５Ｙ（黄）　　無彩色




■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

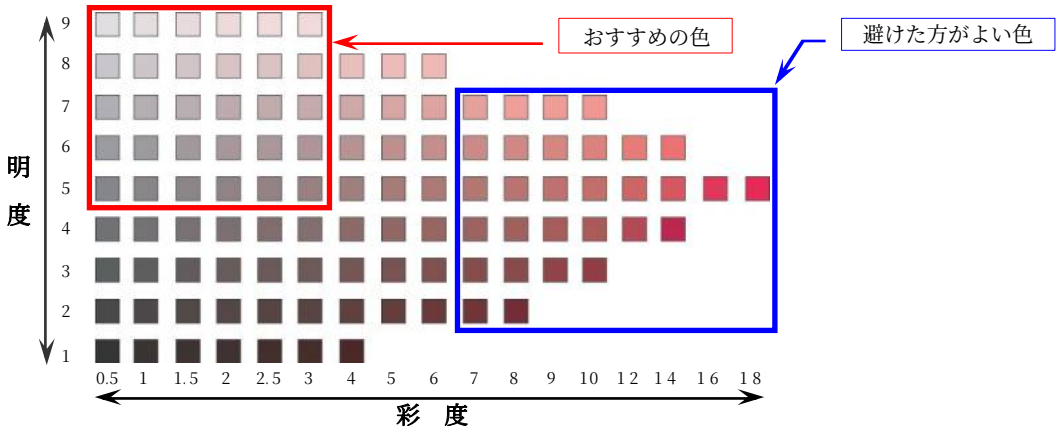



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

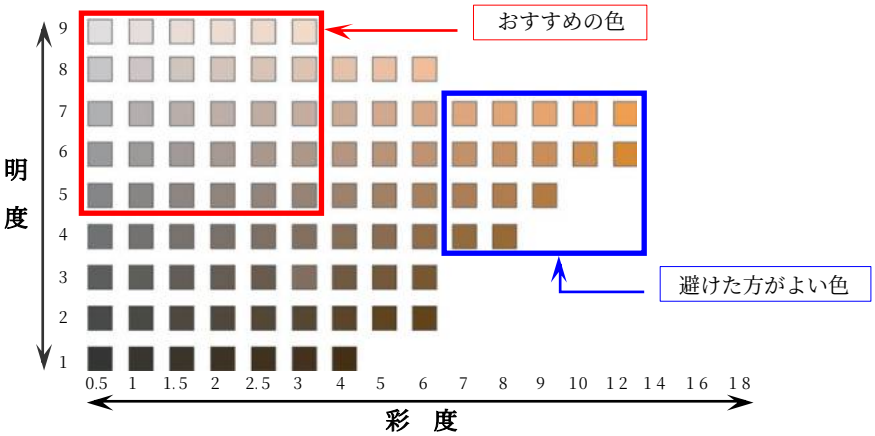
■ 無彩色

次にまちの風景区域（住宅地）のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示します。ここでは、おすすめの色の色相の両端である５Ｒ、5Y とその中間の５ＹＲについて図示します。

**Ｒ（赤）系の色相　【 ５Ｒの場合は・・・ 】**

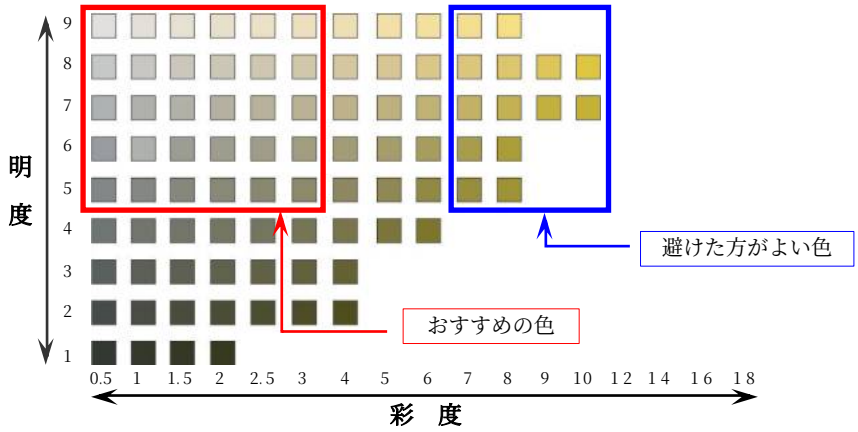



**ＹＲ（黄赤）系の色相　【 ５ＹＲの場合は・・・ 】**



## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

Ｙ（黄）系の色相　【 ５Ｙの場合は・・・ 】

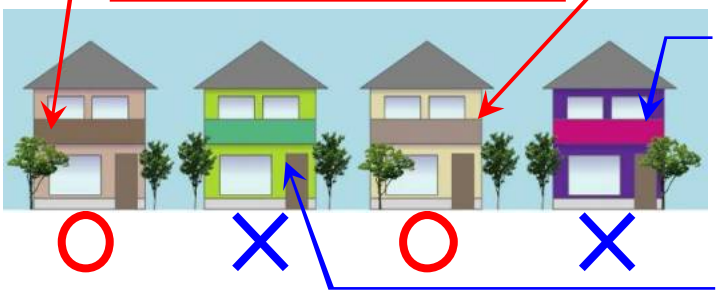



## ■ 事例

まちの風景区域の住宅地では穏やかで落ち着きのある暖色系の色彩を推奨しています。
寒色系の色相や彩度が高いような色は落ち着きあるまち並みを阻害してしまいます。

・ ベランダ：2.5Ｙ 5/1 〔 茶色 〕
・ 外壁　　：10YR 7/2 〔 薄い茶色 〕
・ おすすめの色です。

・ ベランダ：5Ｙ 6/2 〔 灰色がかった茶色 〕
・ 外壁　　：5Ｙ 8.5/3 〔 薄いクリーム色 〕
・ おすすめの色です。

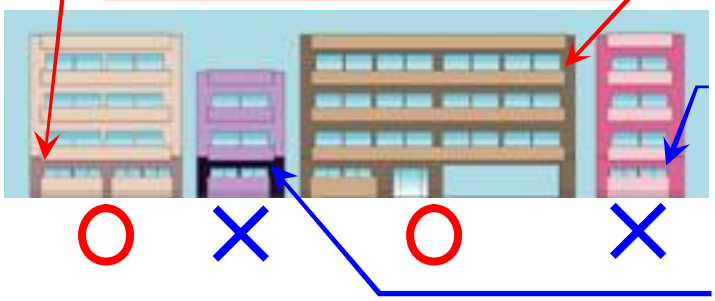



・ ベランダ：7.5PB 4/12 〔 高彩度の青紫色〕
・ 外壁　　：5RP 5/12 〔 高彩度の赤紫色 〕
・ おすすめの色相ではなく、彩度も避けた方がよい範囲の色です。

・ ベランダ：2.5G 5/6 〔 高彩度の緑色 〕
・ 外壁　　：5GY 7/12 〔 高彩度の黄緑色〕
・ おすすめの色相ではなく、彩度も避けた方がよい範囲の色です。

・ 外壁（上層部）：10YR 8/3 〔 薄い赤みの黄色 〕
・ 外壁（下層部）：10R 5/3 〔 くすんだ橙色 〕
・ おすすめの色です。

・ ベランダ：10YR 7/3 〔 薄い茶色 〕
・ 外壁　　：5Ｙ 5/1 〔 茶色 〕
・ おすすめの色です。




・ ベランダ：2.5R 9/2 〔 薄いピンク色 〕
・ 外壁　　：5RP 6/8 〔 高彩度のピンク色〕
・ おすすめの色相ではなく、彩度も避けた方がよい範囲の色が含まれています。

・ 外壁（上層部）：5PB 7/4 〔 高彩度の青紫色〕
・ 外壁（下層部）：Ｎ１ 〔 無彩色 〕
・ おすすめの色相ではなく、彩度も避けた方がよい範囲の色が含まれています。

## （2）商 業 地

### ■ 区域の特徴

まちの風景区域の中の中心市街地や幹線道路沿道などに形成された商業地は、店舗規模も様々で個性をアピールする店舗が多く、統一感に欠けた乱雑なまち並みが形成されやすい地域です。こういった商業地では賑やかで楽しい色彩景観も必要になりますが、建築物等の基調色に高彩度色を使用することは避け、市全体として公園都市（パークシティー）にふさわしく、まとまりを持ったまち並みにするような工夫が大切です。したがって商業地についても、基調色は落ち着いた低彩度色を推奨します。

ＣＩカラー（コーポレート・アイデンティティカラー：ロゴマークやシンボルカラーなどによって企業イメージの明確化を図る色彩）の中には高彩度の色彩のものもあり、大面積で用いると公園都市のイメージを壊しかねません。往来する人の目につきやすい低層部には、アクセントとしての色彩（強調色：アクセントカラー）を用いたり、エントランスやショーウィンドウなどに四季の移ろいが感じられるような色彩を採り入れたりすることで、人々が親しみ楽しめる雰囲気を出すことも可能であり、こういった点での配慮が公園都市の実現には大きく影響してきます。

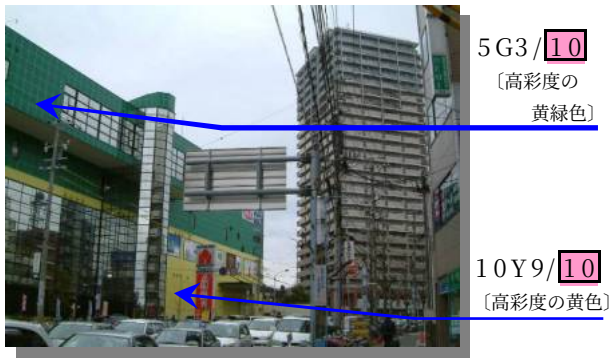
また、ひとりの商業主が高彩度色を基調色に用いると、周辺の店舗はより目立つ色を用いるようになり、どんどんと統一感のないまち並みになっていきます。どの店舗も同じような高彩度色を用いると、結果的には目立たなくもなり、高彩度色で乱れたまち並みだけが残ってしまいます。できる限り高彩度色の使用は控えて、みんなで美しいまち並みをつくっていくという配慮が必要です。

### ■ 特徴的な写真

○〔自然景観〕
- 水辺（東島池）に建つ建物です。
- 明るめの低彩度色で、背後の緑を阻害せず、おすすめの色使いの例です。

○〔公共施設〕
- 多くの人が集う公共施設（市民会館）です。
- 暖かさが感じられる色相であり、明度、彩度も適切な、おすすめの色の建物です。

○〔公益施設〕
- 地区の歴史性を意識した駅舎（名鉄新鵜沼駅）。
- 瓦屋根を採用して意匠も考慮してあり、無彩色の落ち着いた色の外壁と共におすすめです。




×〔大規模店舗 ～ 他都市事例 ～〕
- チェーンストアの派手な色彩を使用した建物です。
- 避けた方がよい彩度の色で、周囲の建物から突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けた方がよい色

商業施設が立地し、多くの人の目に触れるまちの中心地ともいうべき場所です。本市の顔を作る景観上、重要な場所であるため、特に色合いの強い原色系の色彩を建築物や工作物等の基調色として使用することを避けてください。規模の大きいチェーン店などは派手な色彩を基調色に使う傾向が強く、このような色使いは品格ある公園都市の景観の形成を目指す本市においては突出した印象を与えます。またこのような建築物等は沿道景観を阻害する要因にもなります。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（商業地）避けた方がよい色 ≫

〔 高彩度の色があてはまります 〕 etc

外壁 と 屋根

| 色相 | 彩度 |
|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 以上 |
| 5R～5Y | 7 以上 |
| 左記以外 | 2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

まちの風景区域の中の商業地では暖色系を中心に無彩色を含む全色相を推奨します。色相を自由に選択できるようにすることで、まとまりの中にも変化を含んだまち並みを形成することが可能です。

派手な色彩は品格のある景観を阻害してしまいます。色調（トーン）を揃えることなどにより突出した印象を与えることを避け、ゆるやかなまとまりのあるまち並み景観を形成することができます。暖色系以外の色相については、ごく低彩度（彩度 2.5 未満）の色彩を用いる配慮が必要です。

特に大規模建築物等では威圧感や圧迫感をなくし、明るく開放感のある景観を形成するために明るめの色彩を用いることもよいでしょう。また、商業地では低層部にアクセントカラーを用いることにより、店の特徴やイメージを表現するような配慮を求めたいものです。その際には人々が親しみを持ち、楽しめる雰囲気となるような工夫をすることが望まれます。壁面のベースカラーとアクセントカラーの割合はあくまで基調色を優先する必要があります。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（商業地）　おすすめの色 ≫

〔 例えばこんな色があります 〕
・茶鼠（ちゃねずみ）
・小麦色
etc

外壁

| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 以上 10 未満 | 5 未満 |
| 5R～5Y | 5 以上 10 未満 | 7 未満 |
| 左記以外 | 5 以上 10 未満 | 2.5 未満 |
| 無彩色 | | |

屋根

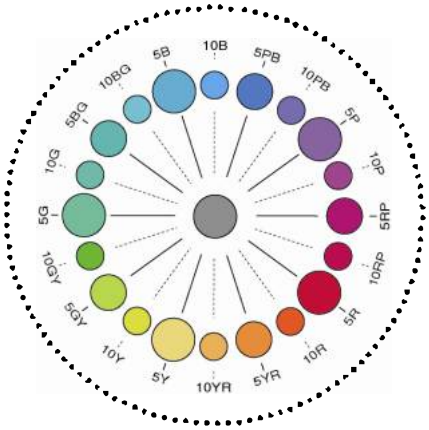
| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 未満 | 2.5 未満 |
| 5R～5Y | 5 未満 | 4 未満 |
| 左記以外 | 5 未満 | 1.5 未満 |
| 無彩色 | | |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

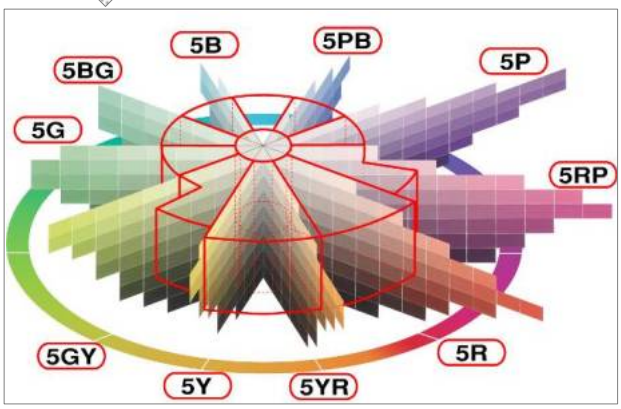
まちの風景区域（商業地）のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
全色相　　無彩色




おすすめの色相

■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

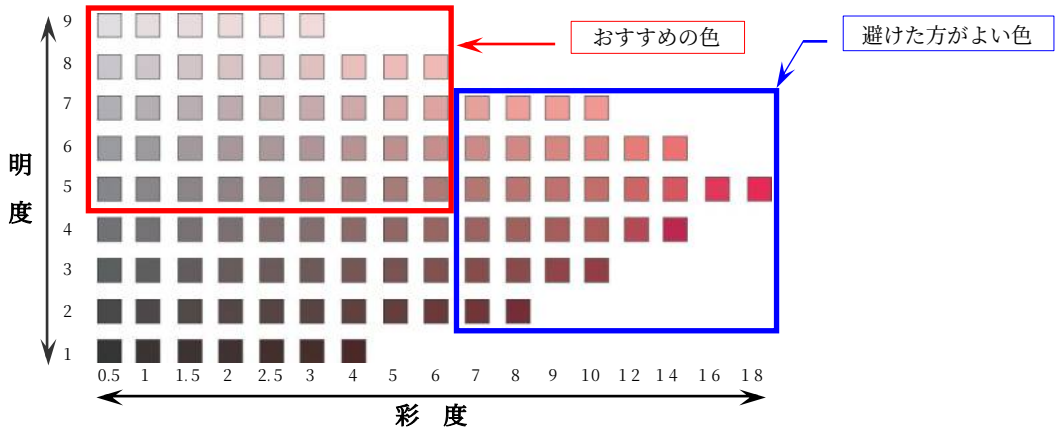



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

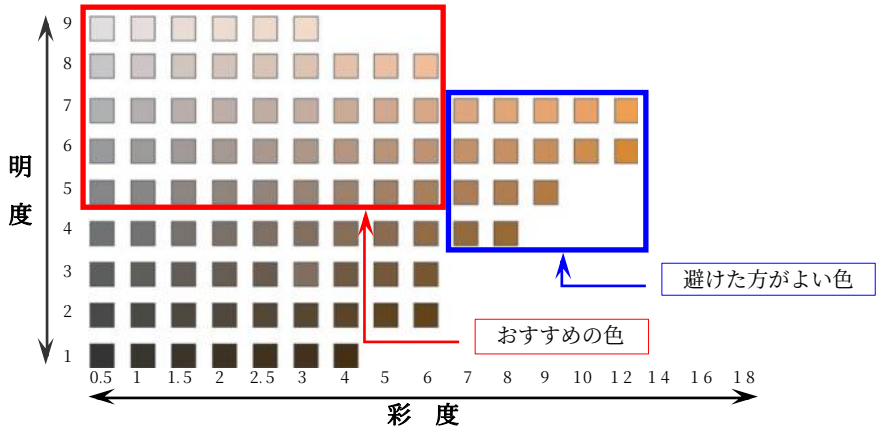
■ 無彩色

次にまちの風景区域（商業地）のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相でのおすすめの色と避けた方がよい色の明度、彩度の範囲を示します。おすすめの色の色相のうち、代表的な５R、５YR、5Y、５GY、５G、５BG、5B、5PB、５P、５RPについて図示します。

R（赤）系の色相　【５Rの場合は・・・】

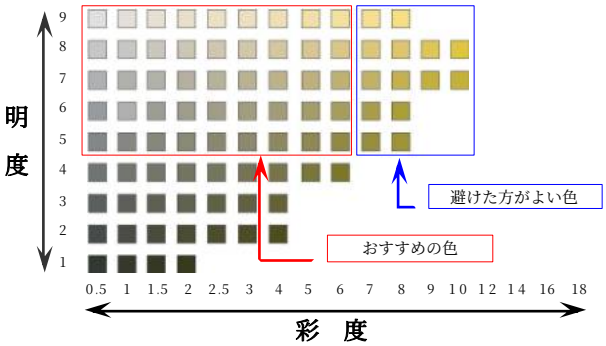



YR（黄赤）系の色相　【５YRの場合は・・・】

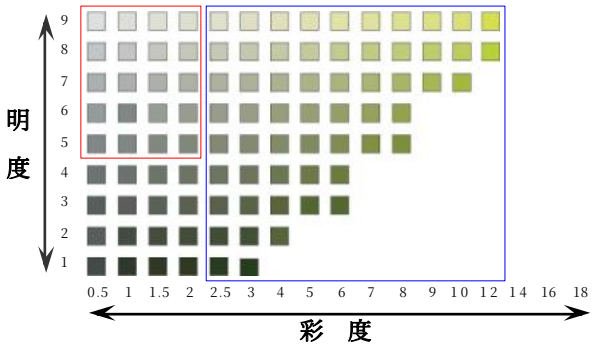


## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

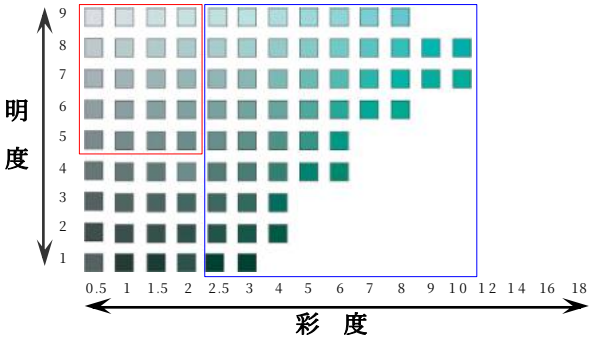
Ｙ（黄）系の色相　【５Ｙの場合は・・・】



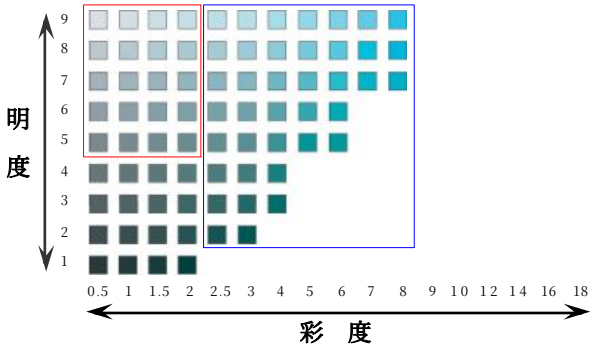

ＧＹ（黄緑）系の色相　【５ＧＹの場合は・・・】



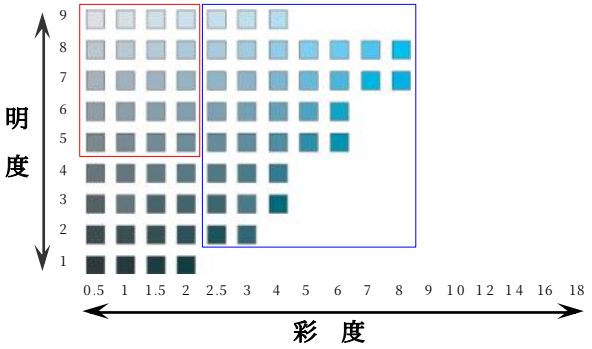

Ｇ（緑）系の色相　【５Ｇの場合は・・・】



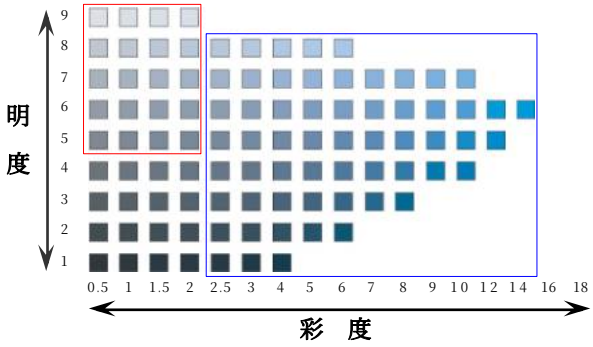

ＢＧ（青緑）系の色相　【５ＢＧの場合は・・・】



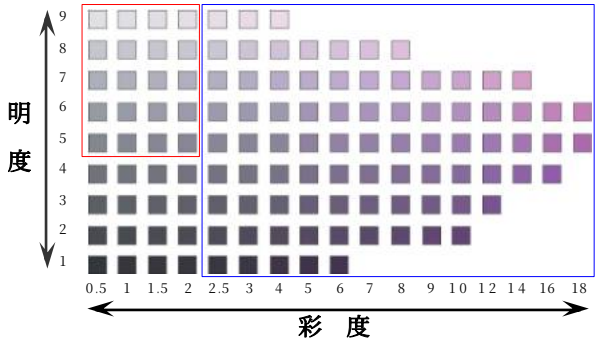

Ｂ（青）系の色相　【５Ｂの場合は・・・】



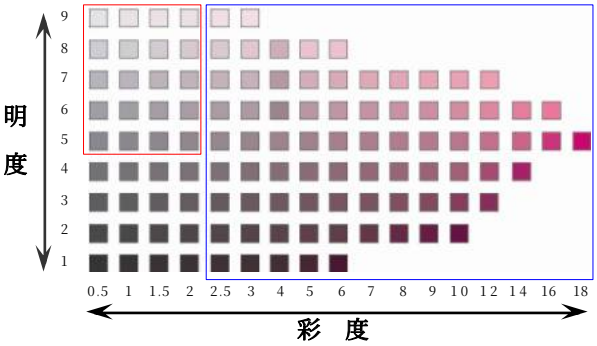

ＰＢ（青紫）系の色相　【５ＰＢの場合は・・・】




Ｐ（紫）系の色相　【５Ｐの場合は・・・】




ＲＰ（赤紫）系の色相　【５ＲＰの場合は・・・】



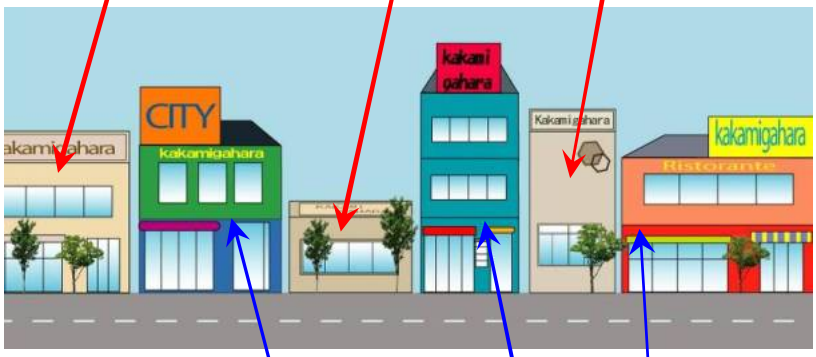
## ■ 事例

まちの風景区域の商業地では暖色系を中心に無彩色を含む全色相を推奨しますが、寒色系の色相で特に彩度が高いような色は、まち並み全体の景観が派手になりまとまりのある景観形成を阻害してしまいます。

・ 外壁：10YR 9/3 〔うすいベージュ〕
・ おすすめの色です。

・ 外壁：2.5Y 8/1.5 〔黄みがかった白色〕
・ おすすめの色です。

・ 外壁：10YR 8.5/1 〔薄い黄みがかった白色〕
・ おすすめの色です。




○　×　○　×　○　×

・ ２階外壁：2.5YR 7/10 〔高彩度の黄赤色〕
・ １階外壁：5R 5/12 〔高彩度の赤色〕
・ おすすめの色相ですが、彩度は避けた方がよい範囲の色です。

・ 外壁：5B 4/8 〔高彩度の青色〕
・ おすすめの色相ですが、彩度は避けた方がよい範囲の色です。

・ ２階外壁：2.5G 5/6 〔高彩度の緑色〕
・ １階外壁：5PB 4/6 〔高彩度の青紫色〕
・ おすすめの色相ですが、彩度は避けた方がよい範囲の色です。

## （3）工 業 地

### ■ 区域の特徴

まちの風景区域の工業地は製造業などが集積する工業の拠点となっている地域です。このような地域では大規模な人工物が多数立地することから、明るく清潔で親しみやすい景観が求められます。

施設の整備においては経済性が重視され、材料や形態などは大きな制約を受ける場合が多いかもしれません。しかし、色彩の選択、変更は比較的容易で材料や形態などに比べれば、経済的負担も少なく済むと考えられます。

工業施設などは特に大規模なものもあり、これらは周辺に圧迫感を与えることが多いので、建築物の配置や形態意匠を考慮したり、緑化を図ることによって周辺環境への圧迫感の軽減にも努める必要があります。

### ■ 特徴的な写真

N 9〔無彩色〕

○〔大規模工業施設〕
・無彩色を採用した大規模な工場内の建物。
・工業施設でありながら、明るい印象を受ける色彩であり、おすすめの色です。

N 8.5〔無彩色〕

5Y9/0.5
〔薄い黄みの白色〕

○〔住宅地に近接する工業施設〕
・住宅地に近接して立地する工場で、無彩色や低彩度色を用いた、おすすめの色使いです。
・敷地周囲の植木が工場の威圧感を低減しています。

10G6/8〔高彩度の緑色〕

×〔大規模工業施設 ～ 他都市事例 ～〕
・経済性を重視した素材が使われている施設です。
・避けた方がよい彩度の色で、周囲の雰囲気から突出した印象を受け、おすすめできません。

7.5Y8/10〔高彩度の黄色〕

×〔自然に近接する工業施設 ～ 他都市事例 ～〕
・自然の緑と違和感の強い色の工場です。
・避けた方がよい彩度の色で、周囲の自然から突出した印象を受け、おすすめできません。

## ■ 避けた方がよい色

工業施設にみられる閉鎖感や閉塞感を軽減し、公園都市（パークシティー）にふさわしい緑に包まれた明るく親しみやすい工業地景観を形成することが求められます。以下のような特に色合いの強い原色系の色彩を建築物や工作物等の基調色として使用することを避けてください。これらの高彩度色では威圧感を与え、公園都市にある工業の中心地に相応しい景観の形成を阻害する要因になります。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（工業地）避けた方がよい色 ≫

〔 高彩度の色があてはまります 〕

etc

外壁 と 屋根

| 色相 | 彩度 |
|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 以上 |
| 5R～5Y | 7 以上 |
| 左記以外 | 2.5 以上 |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色

まちの風景区域の中の工業地では、暖色系を中心に無彩色を含む全色相をおすすめしますが暖色系以外の色相については、ごく低彩度（彩度 1.5 未満）の色彩のみの推奨とします。外壁などの基調色には周辺に住居系の建築物等が立地するような場合は、特にこれらの地域と違和感のない色彩景観を形成するため、低彩度色を用いる必要があります。ライトグレーやウォームグレー、クールグレーなどを中心とした明るい低彩度色を基調色とすることを推奨します。

工業施設は無表情な外装になりがちですが、リズム感を持たせるアソートカラーやアクセントカラーを効果的に用いることで建築物に変化を持たせることができ、企業のイメージを表現することも可能です。各企業が自己主張するのではなく、周辺住民などに明るさや親しみやすさを持たせるような色使いをすることが大切です。

また、屋根の色彩についても明度、彩度の選択には配慮が必要です。外壁の色相との調和に配慮しつつ、低明度、低彩度色を用いてください。

≪ 色彩指針 まちの風景区域（工業地）　おすすめの色 ≫

〔 例えばこんな色があります 〕

・砂色

・鉛色

etc

外壁

| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 以上 10 未満 | 2.5 未満 |
| 5R～5Y | 5 以上 10 未満 | 4 未満 |
| 左記以外 | 5 以上 10 未満 | 1.5 未満 |
| 無彩色 | | |

屋根

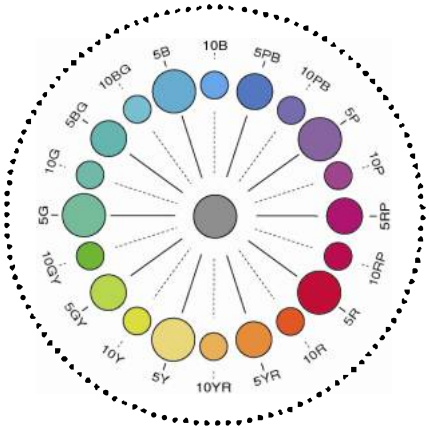
| 色相 | 明度 | 彩度 |
|---|---|---|
| 0R～4.9R<br>5.1Y～10Y | 5 未満 | 2.5 未満 |
| 5R～5Y | 5 未満 | 4 未満 |
| 左記以外 | 5 未満 | 1.5 未満 |
| 無彩色 | | |

※　工作物等の色彩も上記の色彩指針に準じてください。

## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

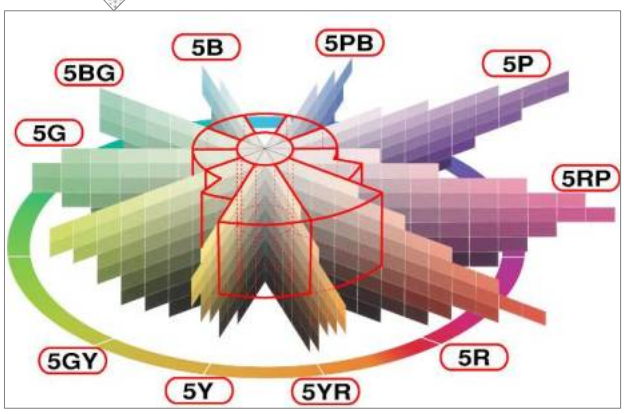
まちの風景区域（工業地）のおすすめの色（外壁）の範囲をイメージ図で示します。色相、明度、彩度の変化に伴う色合いの違いが確認できます。

≪ おすすめの色 外壁 ≫
全色相　　無彩色




おすすめの色相

■ これらの色相で、明度、彩度のおすすめ範囲を併せて立体的に示すと・・・

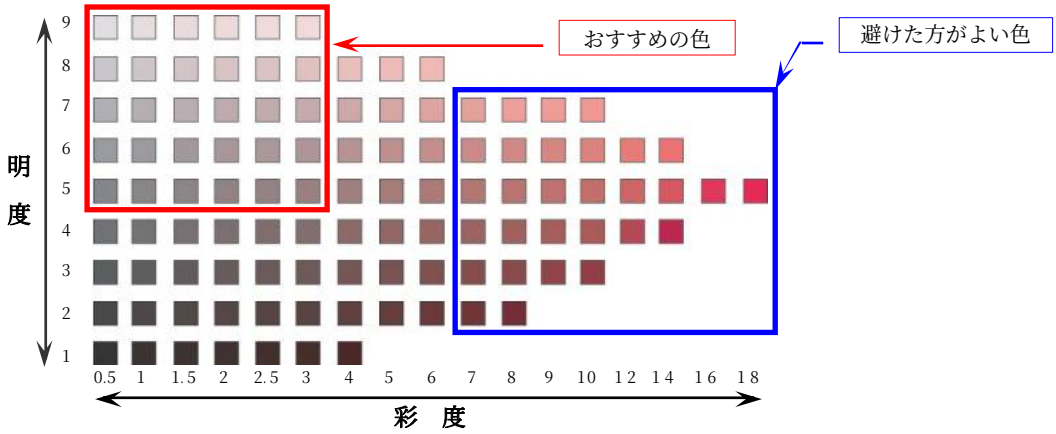



※ 赤い線で囲まれた立体の中にある色が“おすすめの色”です。

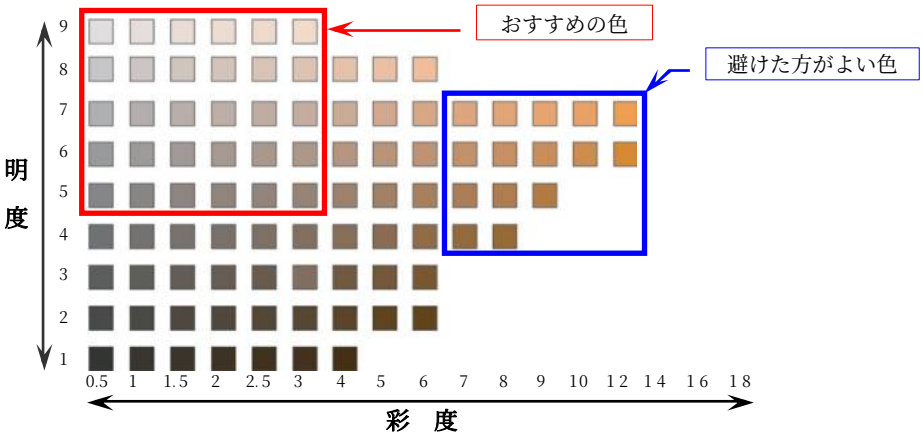
■ 無彩色

次にまちの風景区域（工業地）のおすすめの色（外壁）に含まれる代表的な色相を選定し、その色相での明度、彩度の範囲を示します。おすすめの色の色相のうち、代表的な５R、５YR、5Y、５GY、５G、５BG、5B、5PB、５P、５RPについて図示します。

R（赤）系の色相　【５Rの場合は・・・】

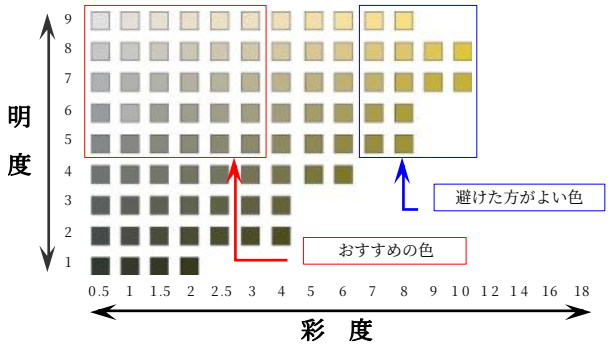



YR（黄赤）系の色相　【５YRの場合は・・・】

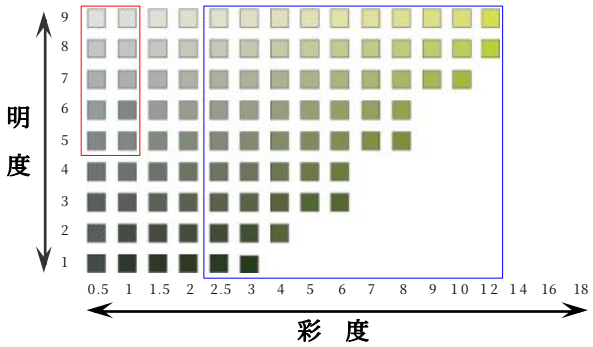


## ■ おすすめの色（外壁）のイメージ

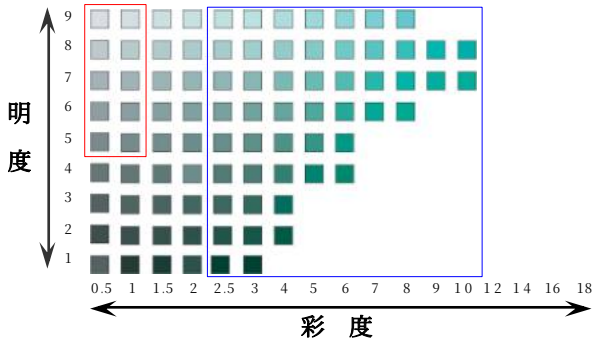
Ｙ（黄）系の色相　【５Ｙの場合は・・・】



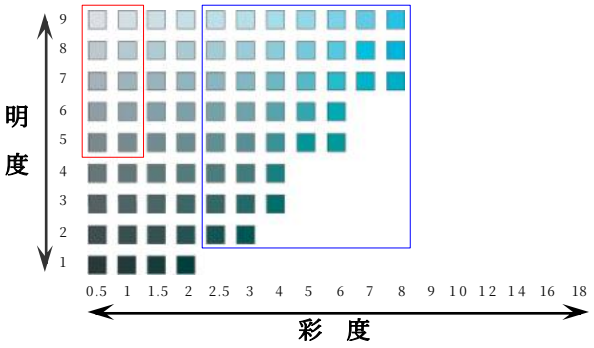

ＧＹ（黄緑）系の色相　【５ＧＹの場合は・・・】



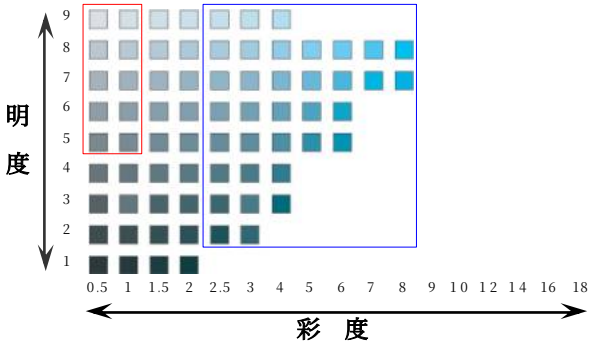

Ｇ（緑）系の色相　【５Ｇの場合は・・・】



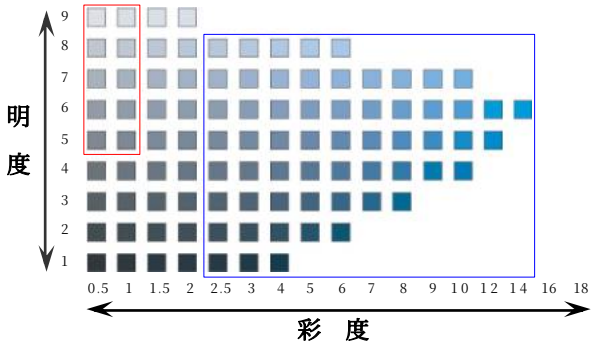

ＢＧ（青緑）系の色相　【５ＢＧの場合は・・・】



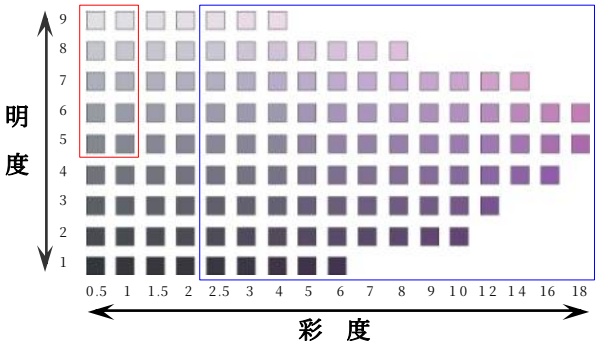

Ｂ（青）系の色相　【５Ｂの場合は・・・】



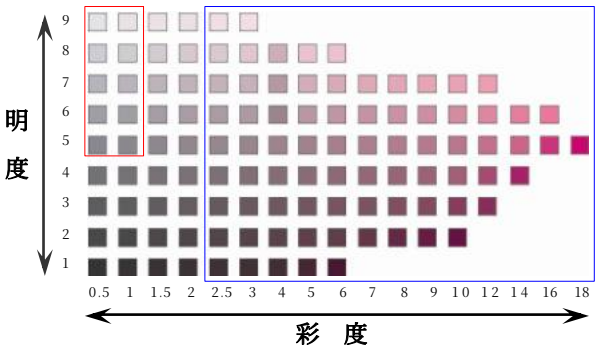

ＰＢ（青紫）系の色相　【５ＰＢの場合は・・・】

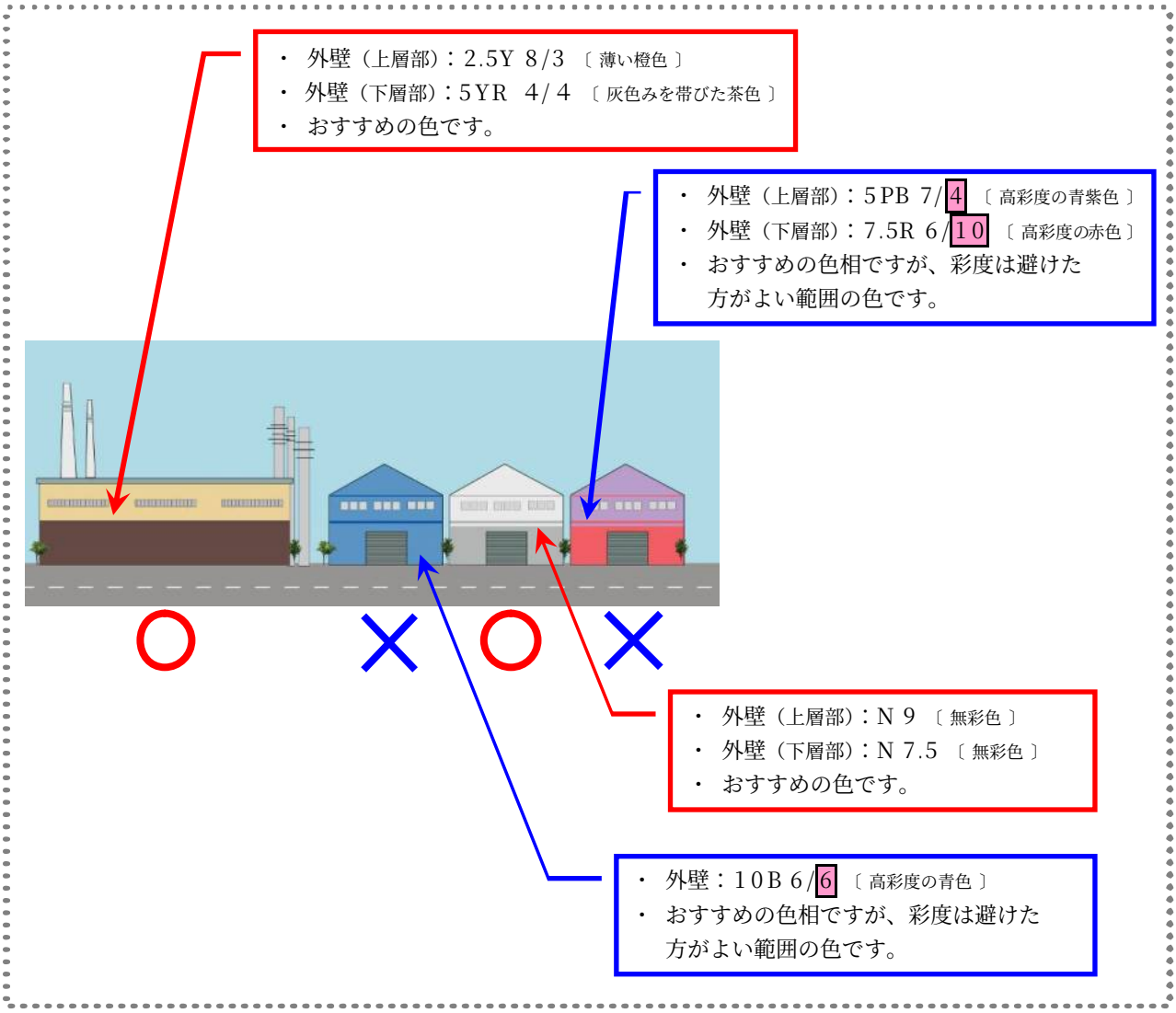



Ｐ（紫）系の色相　【５Ｐの場合は・・・】




ＲＰ（赤紫）系の色相　【５ＲＰの場合は・・・】



## ■ 事例

まちの風景区域の工業地では暖色系を中心に無彩色を含む全色相を推奨しますが、寒色系の色相で特に彩度が高いような色は、明るく親しみやすい工業地としての景観形成を阻害してしまいます。